

【令和6年度】協働事業に関する調査

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
1	危機管理防災課	自主防災組織	市民団体	補助	ふじみ野市 自主防災組織補助金	災害に強いまちづくりを推進するため、地域住民が自主的な防災活動を行うために設立した防災組織の育成を図ることを目的として、自主防災組織に対し、予算の範囲内において補助金を交付する。	(1) 自主防災組織結成支援事業 新たに結成し活動する自主防災組織に対し、20万円を支給する。 (2) 自主防災組織活動支援事業 防災訓練、災害図上訓練、講習会等を実施する自主防災組織に対し、4万円を支給する。 (3) 防災資機材整備支援事業 不足する防災用資機材の整備拡充を図る自主防災組織に対し、10万円を支給する。 (4) 防災倉庫管理支援事業 防災倉庫の更新・修繕・移設・増設を行う自主防災組織に対し、20万円を支給する。 (5) 地区防災計画策定事業 地区防災計画の策定又は見直しをする自主防災組織に対し、10万円を支給する。	【自主防災組織活動支援事業】 20件（598,000円） 【防災資機材整備支援事業】 29件（2,806,000円） 【防災倉庫管理支援事業】 7件（1,356,000円） 【地区防災計画策定事業】 1件（100,000円）		「(2)自主防災組織活動支援事業」は、申請が20件にとどまっている理由として、協働推進課からの補助事業の移管が完全に周知されていないことが挙げられる。 「(3) 防災資機材整備支援事業」は、申請が29件にとどまっている理由として、資機材の充足率が高まってきていることが挙げられる。一方、保管する倉庫のキャパシティの限度に達しているという課題がある。	自主防災組織の強化のため、活用しやすい制度としていくために、補助事業の周知、申請方法の見直しを行っていく。また、防災訓練及び防災資機材整備の支援、地区防災計画の策定支援などを継続的にやっていく。
2	協働推進課	自治組織	市民団体	補助	ふじみ野市自治組織補助金	良好な地域社会を形成し、地域で支え合う社会の維持発展に資するため、自治組織に対し、予算の範囲内において補助金を交付する。	市内58の自治組織の運営に係る費用、事業実施に係る費用、集会所のLED防犯灯）に対して補助金を交付する。	総会、役員会の運営費、地域の防災訓練やもちつき大会の事業費、集会所の光熱水費などに対して、補助金を交付した。デジタル化促進のための補助金も導入した。 全ての自治組織に対して、活動に応じた財政的支援が出来た。	コミュニティ促進や加入促進の補助金を活用する自治組織が増加。	積極的な活動が出来るように、自治組織の要望を聞きながら、今後も効果的な財政支援を検討・構築していく必要がある。	DX化促進のためデジタル促進事業費の活用を促す。また、加入促進についても、活用してもらえるように助言していく。 ホームページ開設の支援等を行う。
3	協働推進課	ふじみ野市花いっぱい運動推進委員会	市民団体	補助	ふじみ野市花いっぱい運動推進事業補助金	花を活かしたまちづくり活動及びコミュニティの場づくり、地域らしさの発見、地域間交流等の活動の推進を図るため、予算の範囲内において補助金を交付する。	ふじみ野市花いっぱい運動推進委員会の事業実施に係る費用に対して補助金を交付する。	花のあるまち風景写真コンテスト：応募数16件 花いっぱい運動コンクール：20団体参加 花栽培講座：1回実施 花壇活動：2回（春秋）植え替え、随時手入れ	補助金の交付により、花いっぱい運動の事業が展開されている。 花いっぱい運動コンクールについて、夏の酷暑で秋冬苗の生育が遅れており実施期間について、加入団体の意見も聞きながら検討したい。	「花いっぱい運動」の認知度向上及び会員団体間のコミュニティを広げる必要がある。	加入団体の花いっぱい運動への事業参加を促し、活動自体を盛り上げていく。並行してホームページや広報の活用他、研修や交流ができる事業の実施、他団体の主催する事業への参加等により、花いっぱい運動推進委員会の活動の周知を行い、団体相互のつながりを作る。また、花いっぱいサポーターとして、事業運営に協力する方を引き続き募集し、団体間の交流を図る。
4	文化・スポーツ振興課	団体、個人	その他	補助	文化芸術活動未来応援事業	市の魅力を高め、地域の活性化、賑わいをつくり出す市民等の自主的・創造的な文化芸術活動を支援する。	文化芸術法第8条から第14条までに規定する文化芸術を活用した地域を元気にする事業及び社会包摂の事業を公募し、採択事業へ補助を行う。	4団体・個人への補助を実施し、コンサート及びワークショップを実施し延べ233名が来場した。	補助金を活用し、市が事業の周知等に協力することで市外からの参加者が増えるなど良い効果があった。	事業者への評価や事業効果を踏まえ、文化振興審議会において事業の在り方や募集・選定基準について検討していく必要がある。	募集要項の見直しを行い、継続して事業を実施する。
5	地域福祉課	民生委員児童委員協議会連合会、主任児童委員	その他	補助	あそびの公園	未就学児を対象としたあそびの場を提供することで地域交流や育児相談など子育て世帯を支援する。	市内の公園や施設で未就学児を対象にあそびの場を提供。ハロウィンやクリスマス、ひな祭りなど季節のイベントにちなんだ催しを企画している。	年10回実施 参加者：10名～20名	主任児童委員制度30周年を記念したクリスマスイベントでは、シャボン玉を使ったマジックショーを開催し、多くの来場者を楽しんでもらえた。	新たな参加者を増やしていくことが課題。	今後も親子が楽しめる場の提供を行う。民生委員・児童委員（主任児童委員）の存在を知ってもらい、地域の相談役として支援できるような活動を実施していく。
6	高齢福祉課	ふじみ野明るい社会づくりの会	NPO	補助	総合事業住民主体型サービス事業	総合事業住民型主体サービス（訪問型サービスB）事業の実施。	事業対象者及び要支援者に対し、生活援助（家事）を中心とする訪問型サービスを実施する。	実施回回数 144回 利用者 3人	NPO法人の安定した運営に活用できている。 高齢者の生きがいに、健康づくりに役立っている。	サービス提供者となる新たな担い手の獲得及び育成が課題。	団体の活動及び会員募集に関し、市報等により周知を図る。
7	高齢福祉課	ふじみ野明るい社会づくりの会	NPO	補助	地域支え合い事業	高齢者の地域における自立した日常生活を支援する地域支え合い事業の実施。	高齢及び子育て世帯等に対し、さまざまな生活援助を提供する。	サービス提供回数 8,041回 サービス提供時間 26,371時間	NPO法人の安定した運営に活用できている。 高齢者の生きがいに、健康づくりに役立っている。	サービス提供者となる新たな担い手の獲得及び育成が課題。	団体の活動及び会員募集に関し、市報等により周知を図る。
8	子育て支援課	青少年育成ふじみ野市民会議	市民団体	補助	青少年健全育成活動事業補助金	少年の主張や青少年健全育成講演会等を通して、青少年に対する理解と認識を深めるとともに、地域における青少年の見守り等の意識向上を目指すことで、次代を担う青少年の健全な育成を図る。	①青少年を健全に育てるための市民大会 "少年の主張inふじみ野" ②青少年健全育成講演会	少年の主張inふじみ野では、市内小中学校・高等学校の各代表1名による主張の発表のほか、大井西中学校吹奏楽部による演奏発表を行った。当日は250人が来場し、青少年への理解を深めることができた。 青少年健全講演会は、ふじみ野市PTA連合会と共同で開催し、講師として俳優・タレントの副島淳氏をお呼びした。「今いる場所だけが全てはない」というテーマで講演をいただき、当日は200人が来場した。	講演会については昨年度に引き続きPTA連合会と共催することで、メディア出演が多い著名な講師を呼ぶことができた。 両事業ともに、更に広く集客できることが望ましい。	両事業ともに集客が課題である。 少年の主張においては、来場者のほとんどが発表者の親族・知人であるのが現状であるが、それ以外の市民にも、地域の青少年が抱えている想いを知ってもらえることが望ましい。	SNSの活用や構成団体への周知依頼等、積極的な広報活動を展開する。講演会においては、魅力的な講師の選定にも注力する。
9	子育て支援課	ふじみ野市地域青少年指導員連絡協議会	市民団体	補助	青少年健全育成活動事業補助金	自治組織連合会に加入している自治組織の区域内に地域青少年指導員を置き、青少年健全育成活動を推進し、その活動を通して地域コミュニティの醸成を図る。	①各区域における地域事業 ②非行防止パトロール(夏、冬)	地域青少年指導員を置いている50区域のうち、45区域において地域事業を実施し、延べ7,156人が参加した。 非行防止パトロールについては、48区域において実施し、全287回、延べ1,435人（夏：全151回、延べ781人、冬：全136回、延べ654人）が参加した。	地域事業については、昨年度と比べて実施区域や参加人数が増加し、各区域における地域コミュニティの醸成をより推進することができた。 コロナでカルタ大会が開催できなかったことにより非行防止パトロールについても、毎年安定した数の実施があり、活動の定着が伺える。	各自治組織における担い手不足が懸念される。 一度休止をする等活动再開のハードルが上がると思われるので、各区域においてできるだけ継続的に指導員を設置できるよう努める必要がある。	引き続き、各自治組織への推薦依頼等を通じて団体の活動内容や意義を伝え、理解していただくことで休止する自治組織数の増加を防ぐ。 また、事業の実施に当たっては、課題や相談事項がある場合には親身に耳を傾け、共に考えるなど、活動に繋げることができるよう協働していく。
10	子育て支援課	ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会	市民団体	補助	ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会補助金	地域子ども会相互の連携調整を図り、イベント等を通して子どもの健全育成に寄与する。	①ふじみ野っ子まつり ②ふじみ野郷土カルタ体験会 ③彩の国21世紀郷土かるた大会	①700人程度の親子が来場し、子どもの遊びや体験の場を提供することができた。 ②10人が参加し、カルタを楽しむとともに、郷土愛の醸成を図ることができた。また、ジュニアリーダーとして1人の中学生が審判として参加をし、次世代指導者育成の一助となることのできた。 ③8人が参加し、上位入賞者は県大会へ派遣を行った。また、ジュニアリーダーとして中学生が審判として4人参加し、次世代指導者育成の一助となることのできた。	ふじみ野っ子まつりの来場者数について、前回より大幅に増加し、より多くの子どもたちへ遊びや体験の機会を提供することができた。 コロナでカルタ大会が開催できなかったことによりジュニアリーダーが減少しているが、事業を継続することによりカルタ大会の参加者が進級してジュニアリーダーとして参加してくれることを期待する。	新たな団体役員の担い手がおらず、事業を拡大することが難しい。	子どもの利益に資する事業を実施しているということの説明し、可能な範囲で単位子ども会の保護者に対して事業への協力を呼び掛ける。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
11	保健センター	ふじみ野市食生活改善推進員協議会	市民団体	補助	地域健康推進事業（ふじみ野市食生活改善推進員協議会事業費補助金）	食育や健康づくり活動を通して市民の栄養及び食生活の改善を図り、健康保持増進に貢献する。	地域に市の健康施策を普及させることを目指し、こどもから高齢者まで、各世代の健康課題に関連した自主事業や市事業への協力を行う。	《市民向け自主事業》 ・夏休み親子クッキング 1回 参加24人 ・防災バッククッキング 1回 参加者18人 《市事業協力》 歯の健康フェア、産業まつり等の市事業に協力	・市民向け自主事業は、調理実習を含めた実践的な内容としており、市民の栄養および食生活の改善に貢献できている。 ・市事業協力では、自主事業とは異なる学びや経験を得ることができている。 ・協議会活動への参加が、会員自身の健康増進や地域コミュニティの構築に役立っている。	・会員の高齢化および会員数の減少 ・市民向け活動の充実	・食生活改善推進員養成講座を定期的に実施し（3年に1回を予定）、新規会員の育成と活動の活性化を支援していく。 ・食育や健康づくりの更なる推進を目指し、自主事業や市事業協力の回数を増やしていく。他の市民団体等との連携を図り、地域での活動を充実させる。
12	社会教育課	大井上組囃子保存会、大井旭囃子保存会、苗間囃子保存会、亀久保囃子保存会、福岡中央一丁目囃子連、織部塚（一本松）等景観保存会、苗間神明神社氏子会	市民団体	補助	文化財保存事業補助金	市域に残された文化財を後世まで永く伝えるとともに、市民が文化財への理解を深めるための一助とする。	歴史上貴重な財産である文化財を保護し、これを活用して郷土愛の育成を図るため。文化財の保存事業を行う者に対し、予算の範囲内において、経費の一部を補助する。	令和6年度は、市指定無形民俗文化財保持団体である囃子保存会4団体及び文化財保護団体2団体、市指定文化財所有者1団体に対し補助金交付の決定をした。事業経費を一部補助することにより、伝統芸能や文化財の保存・継承につなげることができた。		文化財修理の場合、修理費がかかるため、その対応が課題となる。市指定文化財に指定されていない文化財に対しても、保存・継承が必要である。	文化財所有者・保持団体等と連絡をとりあい、文化財の状況を把握し、予算確保に努める。
13	上福岡西公民館	文京学院大学	協定締結先	補助	上福岡西公民館家庭教育セミナー	親子の相互理解を深めるため家庭内でのコミュニケーションを促し、家庭教育の向上を図る。また、保護者が情報交換や交流を深める機会を提供し、より家庭環境の充実を支援する。	文京学院大学の教員と連携し、家庭教育セミナーの目的達成を目指してワークショップを2回実施。	【成果】孤立しがちな親にとって、子育ての悩みの解消、あるいは親同士の友だちづくりにつながっている。 【参加者数】親子7組 【担当教員】人間学部児童発達学科助教 菖蒲沢侑先生	周知方法を工夫する等して、参加者を増やす試みを継続していく必要がある。	ワークショップの内容が非常に好評を得た一方で、参加者数がまだ限定的であることが課題。予の対象年齢の拡大と開催日程について検討しより広く参加を促す方策が必要。	参加募集に際しては、対象年齢に該当する児童の学年の小学校や幼稚園へ向けて直接チラシを配布し、周知活動を強化する。また、事業自体は引き続き継続的に展開する。
14	上福岡西公民館	大東文化大学	協定締結先	補助	わんぱく教室	異年齢の子ども同士で交流する場所や機会を提供し、学校、学年の違う子どもたちによる、たて割班を作り、遊びや体験活動を通して仲間作りをし、相互に尊重し合える人間関係を築くことを目的とします。	遊び及び体験など（全9回）	【成果】様々な遊び・共同作業を通して仲間づくりができました。 【参加者数】延べ参加人数228人	学校での仲間づくりや家庭内での料理を進んで実施するなど、今後も日々の生活に生かせるような事業を継続していきたい。	公民館事業内で、類似事業（異年齢集団事業）があるため、統合等の検討を図る必要がある。	異なる学校に通う子どもたちが異年齢集団を作り、相互に尊重し合える人間関係を築いていく。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
15	協働推進課	おおい祭り実行委員会	市民団体	実行委員会	おおい祭り	多くの市民の参加と協力により、郷土愛を育むふるさとの祭りとして発展させるとともに、祭りを通じて生まれる交流をまちの活性化につなげていくことを目的とし、「おおい祭り」を開催する。	模擬店・ステージ・ストリート・青年バンド・子ども広場等の企画・運営	日時：令和6年7月21日（日） 正午～午後8時30分 場所：東久保中央公園、大井東中学校体育館及び周辺道路 来場者数：約72,000人 内容：ふじみん山車、ステージ事業、ストリート事業、模擬店事業、子ども広場事業、バンドステージ事業	多くの来場者でにぎわいを見せた。大きな事故なく終えることができた。	・暑さ、騒音、熱中症対策 ・ごみのポイ捨て、撮影に関するマナーの向上に関する周知や啓発	ミスファン等の設置、マナー向上の周知に努める。
16	協働推進課	福岡河岸まつり実行委員会	市民団体	実行委員会	福岡河岸まつり	福岡河岸まつりを通して、舟運で栄えた福岡河岸の歴史を将来に繋ぎ、子ども達にふるさとの夏の思い出を提供していく。	模擬店・こども広場・燈籠飾り・ステージ・花火等の企画・運営	前日の大雨のため中止	大雨の河川増水により中止とせざるを得なかった。	開催場所が河川敷であることから雨天予報における開催の判断が難しい。	安全な運営に向けて、なるべく早い判断を心掛ける。
17	協働推進課	平和推進事業実行委員会	市民団体	実行委員会	平和推進事業	戦争の悲惨さ、平和の大切さを市民とともに発信し、誰もが安全で安心な生活を営むことができる平和な世界の実現を目指す。	市（協働推進課・社会教育課）が共催で開催する平和推進事業の企画・運営等の参加・協力	日時：令和6年9月28日（土） 午後1時～3時 場所：市民交流プラザ 多目的ホール 来場者数：121人 内容：葦原中学校吹奏楽部コンサート、講演会、パネル展示会	アンケート：子どもも興味が持てる分かりやすい内容を希望	各団体から選出された委員の方からの提案により、様々な事業を展開することが出来ている。平和に対する意識醸成のため、今後も継続的な取り組みが必要がある。	市報、市ホームページの他、市内小・中学校全児童に配布するなど、積極的にPRを行う。
18	協働推進課	子ども大学ふじみ野実行委員会	市民団体	実行委員会	子ども大学ふじみ野	主に文京学院大学のキャンパスを会場に、大学教授や地域の専門家などが講師となり、市内に在住する小学校4～6年生の子どもの知的好奇心を刺激する講義や体験活動を提供する。	子ども大学ふじみ野実行委員会への参加及び負担金の支出	令和6年11月23日、24日の2日間で開催し、24人が受講した。	アンケート：子どもも興味が持てる、体験型の分かりやすい内容希望が多数。	実行委員会で話し合いを重ね、子どもの満足度の高い事業が実施できている。毎年度、1から事業を検討しており、方向性やテーマ決めに時間や労力がかかる。事業実施までのスケジュール管理が課題である。	変更なく実施する
19	文化・スポーツ振興課	文京学院大学、ふじみ野市音楽家協会、株式会社KDDI総合研究所、個人（アートフェスタふじみ野2024実行委員会）	その他	実行委員会	アートフェスタふじみ野2024	市民に気軽に文化に触れる機会を提供すると共に、分野を超えてアーティストのつながりを醸成し活躍の場を提供する。	プロ、アマチュアアーティストによるコンサート、アート系ワークショップのほか、市民参加による合唱等を実施。	「ふじみ野ステラ・ウェスト」を会場に、45団体が参加し、2日間で7,229名が来場した。また文京学院大学の木村浩則教授、渡辺行野准教授の協力により、10名の学生から当日の運営スタッフとして協力を得た。	さまざまな人の協力で、イベントを成功させることができた。課題はあるが、地域の方々が気軽にアートにふれ、てあう機会づくりとして、次年度以降も実施方法などを検討しながら継続していきたい。	今後の事業の在り方を踏まえ、誰もが気軽に足を運び、アートに触れることができる体制づくりの検討が必要。イベントの実施方法や出演者・参加者等の募集方法を見直していく必要がある。	継続して事業を実施する。
20	文化・スポーツ振興課	スポーツ協会	その他	実行委員会	第20回ふじみ野市ロードレース大会	誰でも気軽に参加できるロードレース大会をスポーツの振興及び健康づくりの一環として開催する。	ふじみ野市第2運動公園周辺をコースとする計8レース17部門のロードレース大会を開催。	申込者数：1,324人 完走者数：1,169人	大きな事故・怪我なく開催し、老若男女問わず多くの方に楽しんでいただくことができた。	小学生（4～6年生）の部及び中学生の部をはじめとする子どもの参加を増やす取り組みが必要である。	大会について、SNS等も活用し周知を強化していく。
21	文化・スポーツ振興課	自治組織	その他	実行委員会	市民スポーツフェスティバル	市内の自治組織が広く参加することから、その地域住民がスポーツを楽しむだけでなく、健康増進やコミュニティとしての親睦を深めることができる場を提供する。	令和6年度は、夏季パリオリンピックの開催にあわせて、東西地域合同で「オールふじみ野市民スポーツフェスティバル」を開催した。	参加者数：2,300人	子供から高齢者、障がいのある方が誰でも参加できる運動会形式で実施され、大勢の参加者が最後まで市民スポーツフェスティバルを楽しんでいた。	令和7年度は東・西地域に分かれて開催する。各地域の開催においても参加者の増加に向けて、周知や参加促進の強化が必要である。	令和7年度は、東地域と西地域に分かれ、さまざまな競技種目を実施する。東地域は一か所に集まり10月に開催、西地域は小学校区毎に各校で9～10月に開催する。子どもから高齢者、障がいのある方まで、誰もが参加できるイベントとして、周知を強化し、参加者の拡大につなげていく。
22	文化・スポーツ振興課	スポーツ協会	その他	実行委員会	第56回入間東部地区駅伝競走大会	入間東部地区の住民相互の交流スポーツ振興とともに、健康・体力づくりを目的に本大会を開催する。	ふじみ野市第2運動公園スタートし、富士見市南畑小学校周辺を周回する全18.9kmコースで、5区間に渡ってたすきをつなぐ駅伝大会を開催。	申込チーム数：90チーム 完走チーム数：74チーム	寒く冷たい雨が降る厳しい条件で、多くの方が参加し、楽しく笑顔あふれる大会が実施できた。	令和6年度より学生部門を新設したが、今後はさらに中高生や女子の部の参加を取り組みが必要である。	大会内容及び学生・女子の部について、広報や周知の強化を図り、参加者の拡大につなげる。
23	産業振興課	ふじみ野「福」ハル実行委員会	その他	実行委員会	ふじみ野「福」ハル	地元飲食店を主体に商業・サービス業者を対象とした誘因性の高い「食べ歩き、飲み歩き」をテーマとしたイベント「街ハル」を実施することにより来街者の増加と回遊性の向上を図り、商店街等の賑わいを創出する。	お店をはしごしながら食べ・飲み歩きするグルメ&ショッピングイベント	令和6年11月4日～17日実施 10,085枚販売(紙チケット6,590枚、オンラインチケット3,495枚) 参加70店舗	長く続いており、店舗・お客様からの支持を受けている事業であるが、回数を重ねる度に、事業開催目的が曖昧になってきている。	実行委員会との綿密な協議	ふじみ野市商工会との連携 福ハル実行委員会会議の開催
24	産業振興課	上福岡七タまつり実行委員会	市民団体	実行委員会	上福岡七タまつり	伝統ある上福岡七タまつりがふるさとのお祭りとして、子どもたちの心にいつまでもなつかしい思い出となるように、また、市民の心ふれあう街としていくため、多くの市民の参加を図りつつ、観光客の誘致に務め地元産業と観光の振興に寄与する祭典とする。	模擬店・各団体によるステージ・市民盆踊り・阿波踊り・竹飾りコンクール等	令和6年8月3日～4日実施 来場者数177,000人	多くの来場者や関係者を巻き込む大規模な事業になるため、事故なく安全にまつりを開催する。	実行委員会との綿密な協議と万全な体制づくり	七タまつり実行委員会会議の開催 細部については部会で分け、意見を言いやすい環境を作る。
25	産業振興課	ふじみ野市産業まつり実行委員会	市民団体	実行委員会	ふじみ野市産業まつり	ふじみ野市をより活力あるものにするため、地元産業が地域社会において果たしている重要な経済的、社会的役割を再確認し、商業者、農業者と多くの市民の参加のもとにふれあいの場を作ることにし、その意識の高揚を図り、もって地元産業の振興に寄与するまつりとして開催する。	模擬店・かぼちゃの重さ当てクイズ・釜めし交換等	令和6年11月3日実施 来場者数57,000人	多くの来場者や関係者を巻き込む大規模な事業になるため、事故なく安全にまつりを開催する。	・実行委員会との綿密な協議と万全な体制づくり ・感染症拡大前の規模と賑わいを創出	産業まつり実行委員会会議の開催



No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
26	協働推進課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	公務キャリア特講	現役で活躍する市の職員が、文京学院大学の学生に対し、自ら取り組んでいる政策課題や仕事の魅力等について講義し、職員の派遣研修及び学生の公務員志望に繋げる。	地域社会の様々な課題・ニーズに対応している公務員という職業の実態を多角的な視点から理解し、共生社会実現に資するための知識や意欲を身につける。また、ふじみ野市の地域課題を知り、対応策の模索、政策の提案を考えていく。	9月25日～1月8日の期間で計13回の講義を行い、16部署から25人の講師を派遣した。 受講生人数　40名	受講者アンケート ・オムニバス形式の授業がよかった ・公務員の仕事内容・役割・特徴について理解できた。 ・授業をきっかけに公務員を志望するようになった。	公務員志望の学生が今後増えていけるよう、講義の形式や内容の工夫を図る。	公務員の業務内容中心の講義だけでなく、民間企業との違いについても触れるなど、学生がより理解しやすい内容にする。
27	協働推進課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	プラスワン講座	市内で活動する市民活動団体やNPO・自治組織を支援するため、活動に役立つ知識、スキルアップを目的とした講座を開催する。	令和6年度市民活動団体を対象にしたホームページ作成講座の開催	テーマ：ホームページを作りませんか 日時：令和7年2月3日 令和7年2月10日 令和7年3月3日　（番外編） 参加団体数：21団体 番外編は15団体	多くの団体がホームページを作成し、団体の活動内容の周知が可能になった。	市民活動団体のデジタル化促進のため、引き続きフォローが必要。	ホームページだけでなく、パソコンの無料サービスを利用しデジタル化促進を進める。
28	文化・スポーツ振興課	NPO法人ふじみ野市音楽家協会、ふじみ野市文化協会	その他	事業協力	文化芸術アウトリーチ事業	文化芸術に親しむ環境づくりや、心豊かな感性を育む情操教育の一助とすること、また、芸術系の部活動や授業等へのサポートを行う。	小・中学校等からの要望に基づいて主にふじみ野市近隣在住のアーティストを派遣する。	小中学校5校へアーティストを派遣し、音楽の特別授業や合唱指導、キャリア教育を実施した。	子どもたちも先生も地域の方もみんなが笑顔になる時間をつくることができた。 地域の子どもたちと触れあう機会となり、刺激になった。	学校によって利用機会の数に差がある。より多くの児童生徒に文化芸術に触れる機会を提供するため、学校への事業の周知に継続して取り組む必要がある。	継続して事業を実施する。
29	文化・スポーツ振興課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	ふじみ野市ロードレース大会	小学生からシニアまで幅広い年齢層が一堂に会し、親子でも参加できるスポーツイベントを、スポーツ振興及び健康づくりの一環として開催する。	ロードレース大会	マッサージブースのご提供をいただき、ランナーのリカバリーに大きく貢献された。 また、大会を一層盛り上げていただくことに寄与された。	マッサージを受けた方々からは大変好評をいただいた。来場者の中には、理学療法学科について知らなかった方や中高生もあり、大学に興味を持ってもらうきっかけになった。 他者に対して実際にマッサージをすることで、コミュニケーション能力や解剖学的知識の重要性を再認識できた。 医療班として毎年参加している富家病院のスタッフとも交流する機会となっており、入籍した卒業生の様子や実習およびリクルートに関して情報交換する良好な交流ができた。	テントが大学仕様だと、より目立ち周知につながるかと感じた。	変更なく実施する
30	産業振興課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	上福岡七タまつり	伝統ある上福岡七タまつりがふるさとのお祭りとして、子どもたちの心につつまでもなつかしい思い出となるように、また、市民の心ふれあう街としていくため、多くの市民の参加を図りつつ、観光客の誘致に努め地元産業と観光の振興に寄与する祭典とする。	模擬店・各団体によるステージ・市民盆踊り・阿波踊り・竹飾りコンクール等	令和6年8月3日～4日実施 来場者数177,000人 協力学生人数：30人	多くの来場者や関係者を巻き込む大規模な事業になるため、事故なく安全にまつりを開催する。	実行委員会との綿密な協議と万全な体制づくり	七タまつり実行委員会会議の開催 細部については部会で分け、意見を言いやすい環境を作る。
31	産業振興課	文京学院大学	市民団体	事業協力	市内企業連携交流会	市内の各企業が抱えている事業課題の解決・改善のために産学官が連携して意見交換し、相互交流を深めるために実施する。 企業における人材定着や社内コミュニケーション、文京学院大学の新学部設立に向けた企業連携などをテーマとして実施する。	人材育成・人材定着についての意見交換等	令和7年2月6日実施 参加者　企業6社・8名 関係団体2団体・6名 事務局2団体・4名	アンケートを実施し、12名の回答者全員が、「とてもよかった」または「よかった」との回答があった。	今後の連携内容の検討	文京学院大学との連携
32	産業振興課	文京学院大学	市民団体	事業協力	大学生および若手社員向け交流会	企業の若手社員および学生の交流事業通して、双方のコミュニケーション能力の向上、企業側の将来的な雇用創出および人材確保、企業同士の若手社員の交流による連携強化等を図る。	テーマ「社内のコミュニケーションを円滑にする方法」についてのグループワーク等	令和6年11月19日実施 参加者　企業3社7名 学生20名 事務局2団体・4名	アンケートを実施し、9名の回答者のうち8名が、「とてもよかった」または「よかった」との回答があった。	グループワークのテーマ設定	文京学院大学との連携
33	地域福祉課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合相談センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	困窮世帯に向けたフードパントリーを実施するとともに、地域の子ども・子育て世帯・高齢者・ひきこもり当事者などの居場所や社会参加につながる取り組みとして実施する。今回は、冬休みフードパントリー・多世代交流「コンサート＆ワークショップ」のワークショップの一部を文京学院大学地域連携センターBICSの学生ボランティアの協力で、フォトフレーム作りを実施。多くの参加者が参加し、交流を図る。	パントリー参加世帯：28世帯  参加者数：84人（子育て世帯65人、高齢者19人）  文京学院大学地域連携センターBICS 茂井万里江准教授 学生ボランティア　5名	BICSとしての地域貢献の場が得られて良かった、直接参加者に関わることで、参加者の喜ぶ姿を感じ、今後の活動への更なる活力となった等の感想をいただいた。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市が多世代交流や地域づくり事業等のイベントを開催する際、大学に情報提供し学生の参加を呼びかける。学生がボランティアとしての役割を担うだけでなく、学生自身の学びの機会や地域住民との相互作用による相乗効果が期待できるよう取り組んでいく。
34	地域福祉課	ふじみ野市文化協会アートキャラバン	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合相談センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	困窮世帯に向けたフードパントリーを実施するとともに、地域の子ども・子育て世帯・高齢者・ひきこもり当事者などの居場所や社会参加につながる取り組みとして実施する。今回は、冬休みフードパントリー・多世代交流「コンサート＆ワークショップ」のワークショップの一部をふじみ野市文化協会アートキャラバンの協力で、エコバックペイント、アルコールインクDEカード作りを実施。多くの参加者が参加し、交流を図る。	パントリー参加世帯：28世帯  参加者数：84人（子育て世帯65人、高齢者19人）	高齢の参加者が子どもに交じり、喜んで参加されていた。使用期限の過ぎてしまったものを材料に工夫して活用していただいた。カラフルな作品が完成し、皆喜ばれていた。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市が多世代交流や地域づくり事業等のイベントを開催する際、多世代が地域住民と交流ができるように支援していく。
35	地域福祉課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合相談センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	スタバふじみ野清見店/ババマカフェを開催。障がいのあるお子さんとババママ対象に開催した。文京学院大学地域連携センターBICS学生ボランティアの協力で、コーヒー豆かすを使ったペーパーバックペイントや絵本の読み聞かせなどを行った。子育てに関する情報交換や仲間づくりを楽しんでいた。いただいた。	参加世帯：3世帯 参加者数：9人 文京学院大学地域連携センターBICS 茂井万里江准教授 学生ボランティア　5名	BICSとしてスターバックスコーヒーの地域貢献活動に参加することができてよかった。障がい特性を理解した対応が求められたが、事前準備をしっかりと行い、対応することができた。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市が地域づくり事業等のイベントを開催する際、大学に情報提供し学生の参加を呼びかける。学生がボランティアとしての役割を担うだけでなく、学生自身の学びの機会や地域住民との相互作用による相乗効果が期待できるよう取り組んでいく。
36	地域福祉課	明治安田生命保険相互会社川越支店ふじみ野営業所	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 食料品　13回　合計　144点 子ども食堂や困窮世帯へ配布、またはパントリーイベント時に配布。	地域貢献活動の一環で、事業所内で常時フードドライブを実施しており、職員間にも浸透し、主旨を理解したうえで、定期的に寄付品を集めることができています。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	今後も寄付等の申し出があった場合は、市の事業や民間団体の活動について理解いただき、寄付者の意向に沿った有効活用をしていく。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
37	地域福祉課	SOMPOケアラヴィーレ上福岡	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	ひきこもり当事者などの居場所や社会参加につながる取り組みとして地域活動を実施する。毎週（水）10:00～10:40 施設内の清掃、施設外の花壇の花植え、手入れなどの作業を行った。	合計 49回 毎回 1～3名参加	地域活動時にスタッフ立ち合いで指導していただいたり、クリスマスにはランチ会に参加させてもらった。	地域活動参加者が、障がい福祉サービスの事業所に通所開始したため、参加できなくなった。今後の参加者を選定していかなければならない。	市の事業への理解と協力について話し合い、官民連携による取組を実施するとともに、地域住民の活動とのマッチングやコーディネートを行う。
38	地域福祉課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	スタバふじみ野清見店/ババママカフェを開催。障がいのあるお子さんと/ババ・ママ対象に開催した。文京学院大学地域連携センターBICS学生ボランティアの協力で、コーヒー豆かすのペインティングやお絵描き、大型絵本の読み聞かせなどを行った。子育てに関する情報交換や仲間づくりを楽しんでいた。	参加世帯：4世帯 参加者数：9人 文京学院大学地域連携センターBICS 茂井万里江准教授 学生ボランティア 5名	BICSとしてスターバックスコーヒーの地域貢献活動に参加することができてよかった。アートの興味のない子もいたため、ほかにできるものの準備も必要だと思った。多様な対応が求められるため、勉強になった。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	地域づくり事業等のイベントを開催する際、大学に情報提供し学生の参加を呼びかける。学生がボランティアとしての役割を担うだけでなく、学生自身の学びの機会や地域住民との相互作用による相乗効果が期待できるよう取り組んでいく。
39	地域福祉課	スターバックスふじみ野清見店	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	スタバふじみ野清見店/ババママカフェを開催。障がいのあるお子さんと/ババ・ママ対象に開催した。文京学院大学地域連携センターBICS学生ボランティアの協力で、コーヒー豆かすのペインティングやお絵描き、大型絵本の読み聞かせなどを行った。子育てに関する情報交換や仲間づくりを楽しんでいた。	2回	BICSとしてスターバックスコーヒーの地域貢献活動に参加することができてよかった。アートの興味のない子もいたため、ほかにできるものの準備も必要だと思った。多様な対応が求められるため、勉強になった。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	地域づくり事業等のイベントを開催する際、大学に情報提供し学生の参加を呼びかける。学生がボランティアとしての役割を担うだけでなく、学生自身の学びの機会や地域住民との相互作用による相乗効果が期待できるよう取り組んでいく。
40	地域福祉課	スターバックスふじみ野電久保店	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。ふくし総合センターよりそい（社会福祉協議会受託）で実施する。	スタバふじみ野電久保店/ババママカフェを開催。障がいのあるお子さんと/ババ・ママ対象に開催した。社会福祉法人保育園、文京学院大学地域連携センターBICS学生ボランティアの協力で、コーヒー豆かすのペインティングやお絵描き、大型絵本の読み聞かせなどを行った。子育てに関する情報交換や仲間づくりを楽しんでいた。	5回	BICSとしてスターバックスコーヒーの地域貢献活動に参加することができてよかった。アートの興味のない子もいたため、ほかにできるものの準備も必要だった。多様な対応が求められるため、勉強になった。	地域の企業や学校の協力が地域活性に繋がり、企業や学校にとっても地域貢献活動になる。この企画は、官民連携が不可欠であり、今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	地域づくり事業等のイベントを開催する際、大学に情報提供し学生の参加を呼びかける。学生がボランティアとしての役割を担うだけでなく、学生自身の学びの機会や地域住民との相互作用による相乗効果が期待できるよう取り組んでいく。
41	地域福祉課	埼玉りそな銀行上福岡支店 埼玉りそな銀行ふじみ野支店	協定締結先 事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 ・食料品 2回 328点 ・文房具 1回 210点 を子ども食堂、生活困窮者、学習支援教室等に配布	りそな銀行内で職員に向けてフードドライブを定期的におこない、寄付に至った。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	今後も寄付等の申し出があった場合は、市の事業や民間団体の活動について理解いただき、寄付者の意向に沿った有効活用をしている。
42	地域福祉課	日清紡マイクロデバイス労働組合	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 文房具・日用品 2回 合計 118点 子ども食堂や困窮世帯へ配布、またはパントリーイベント時、学習支援教室等に配布。	事業の趣旨を理解いただき、困窮世帯等への協力をいただいた。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市の事業への理解と協力について話し合い、官民連携による取組を実施するとともに、地域住民の活動とのマッチングやコーディネートを行う。
43	地域福祉課	日清紡マイクロデバイス株式会社川越事業所	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 食料品 1回 合計 61点 文房具 2回 合計 118点 子ども食堂や困窮世帯へ配布、またはパントリーイベント時、学習支援教室等に配布。	事業の趣旨を理解いただき、困窮世帯等への協力をいただいた。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市の事業への理解と協力について話し合い、官民連携による取組を実施するとともに、地域住民の活動とのマッチングやコーディネートを行う。
44	地域福祉課	オリエンタルコーポレーション本社 オリエンタルコーポレーション本社別館	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 食料品 12回 合計 579点 子ども食堂や困窮世帯へ配布、またはパントリーイベント時に配布。	事業の趣旨を理解いただき、困窮世帯等への協力をいただいた。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市の事業への理解と協力について話し合い、官民連携による取組を実施するとともに、地域住民の活動とのマッチングやコーディネートを行う。
45	地域福祉課	飯能信用金庫	事業者	事業協力	生活困窮者自立相談支援事業 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	生活困窮世帯や子どもの生活・育成環境を整備するための支援体制や地域活動の推進を図る。	地域で活動する子ども食堂や子どもの居場所づくりを実施している民間団体との連携を図り、食料品等の寄付品の調整を行う。	寄付品 食料品 1回 合計 53点 子ども食堂や困窮世帯へ配布、またはパントリーイベント時に配布。	事業の趣旨を理解いただき、困窮世帯等への協力をいただいた。	地域の企業やお店の協力が地域活性に繋がり、企業やお店にとっても地域貢献活動になる。今後も地域づくりの視点で地域を繋げていく必要がある。	市の事業への理解と協力について話し合い、官民連携による取組を実施するとともに、地域住民の活動とのマッチングやコーディネートを行う。
46	地域福祉課	文京学院大学	協定締結先	事業協力	生活困窮者支援等のための地域づくり事業	包括連携協定を締結している大学との協力体制を構築することにより、地域福祉行政の推進を図り、地域共生社会の実現を目指した地域づくりの一助とする。	文京学院大学人間学部人間福祉学科における授業「キャリアデザイン演習Ⅱ」講師の受託。	地域福祉課福祉総合支援チーム大川リーダーによる講義を実施	大学の教育活動に協力することで、大学との連携体制の強化、学生ボランティアの呼びかけ及び将来的な人材育成に寄与することができた。	大学がもつ専門性や学生のマンパワーと市の事業が相乗的に作用し活用できるよう、大学との懇談を重ね、更なる協力体制の強化を図る。	今後も大学の教育活動への参加を通して、市の事業に対する学生の理解を広めるとともに、大学との協力体制を継続していく。
47	地域福祉課	第2層協議体（かすみがおか園域）	市民団体	事業協力	生活支援体制整備事業	地域の多様な事業主体と連携し、地域における日常生活上の支援体制の充実及び強化並びに高齢者等の社会参加の推進を一体的に図る	市内4園域ごとに協議体を設置し、住民や団体、事業者が主体となって地域のニーズや課題、社会資源について情報交換するとともに、地域の実情に応じた地域づくり活動を行う。	協議体開催 6回 延べ111名 あいさつキャラバン 2回 168名 にじいろTIME 9回 59名 パンチプロジェクト 4か所	地域の住民や団体、事業所の協働による協議体から出た意見を生活支援コーディネーターが調整して、様々な課題に対応した住民主体の地域づくり活動に取り組むことができた。	活動の担い手や参加者の高齢化が顕在化しており、後継の担い手の育成や活動の継続が今後の課題となっている。	これまでは高齢者の介護予防を中心に活動を進めてきたが、対象層を市民全体とすることで、多世代交流等幅広い活動を展開していく。
48	地域福祉課	第2層協議体（ふくおか園域）	市民団体	事業協力	生活支援体制整備事業	地域の多様な事業主体と連携し、地域における日常生活上の支援体制の充実及び強化並びに高齢者等の社会参加の推進を一体的に図る	市内4園域ごとに協議体を設置し、住民や団体、事業者が主体となって地域のニーズや課題、地域の実情に応じた地域づくり活動を行う。	協議体開催 6回 延べ141名 中丸さんちの体操・ワークショップ 9回 花壇づくり 3回	地域の住民や団体、事業所の協働による協議体から出た意見を生活支援コーディネーターが調整して、様々な課題に対応した住民主体の地域づくり活動に取り組むことができた。	活動の担い手や参加者の高齢化が顕在化しており、後継の担い手の育成や活動の継続が今後の課題となっている。	これまでは高齢者の介護予防を中心に活動を進めてきたが、対象層を市民全体とすることで、多世代交流等幅広い活動を展開していく。



No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
49	地域福祉課	第2層協議体（つるがまい圏域）	市民団体	事業協力	生活支援体制整備事業	地域の多様な事業主体と連携し、地域における日常生活上の支援体制の充実及び強化並びに高齢者等の社会参加の推進を一体的に図る	市内4圏域ごとに協議体を設置し、住民や団体、事業者が主体となって地域のニーズや課題、社会資源について情報交換するとともに、地域の実情に応じた地域づくり活動を行う。	協議体開催 6回 延べ163名 緑ヶ丘マルシェ 4回 287名 緑ヶ丘オレンジカフェ 2回 23名 緑ヶ丘立ち寄りカフェ 毎週金曜日開催 緑ヶ丘立ち寄りカフェイベント 11回 232名 鶴ヶ岡マルシェ 11回 452名 亀ボッチャ他 5回 201名	地域の住民や団体、事業所の協働による協議体から出た意見を生活支援コーディネーターが調整して、様々な課題に対応した住民主体の地域づくり活動に取り組むことができた。	活動の担い手や参加者の高齢化が顕在化しており、後継の担い手の育成や活動の継続が今後の課題となっている。	これまでは高齢者の介護予防を中心に活動を進めてきたが、対象層を市民全体とすることで、多世代交流等幅の広い活動を展開していく。
50	地域福祉課	第2層協議体（おおい圏域）	市民団体	事業協力	生活支援体制整備事業	地域の多様な事業主体と連携し、地域における日常生活上の支援体制の充実及び強化並びに高齢者等の社会参加の推進を一体的に図る	市内4圏域ごとに協議体を設置し、住民や団体、事業者が主体となって地域のニーズや課題、社会資源について情報交換するとともに、地域の実情に応じた地域づくり活動を行う。	協議体開催 6回 延べ103名 ソレイユひろば 3回 162名 地域だれでも食堂 3回 57名	地域の住民や団体、事業所の協働による協議体から出た意見を生活支援コーディネーターが調整して、様々な課題に対応した住民主体の地域づくり活動に取り組むことができた。	活動の担い手や参加者の高齢化が顕在化しており、後継の担い手の育成や活動の継続が今後の課題となっている。	これまでは高齢者の介護予防を中心に活動を進めてきたが、対象層を市民全体とすることで、多世代交流等幅の広い活動を展開していく。
51	地域福祉課	イオンタウンふじみ野	事業者	事業協力	福祉総合支援事業	すべての人が住み慣れた地域で過ごすことができるよう、地域住民や地域の多様な主体が参画し住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に作っていく地域共生社会の実現を目指すための周知、啓発、人材育成等の推進を図る。	地域共生社会展 ①地域づくり活動発表会・シンポジウム ②ふじみ野コレクション（高齢者のファッションショー） ③地域活動のパネル展示 ④交流スペース	令和6年11月26～28日 ①74名 ②129名 ③展示パネル40点 ④ワークショップや保育園児によるわらべ歌を計5回開催	第2層協議体の活動を取り上げ、他の団体の活動内容や課題について共有することができた。 当日はテレビ取材もあり、参加者の特集番組が放映されたこともあり、より多くに対する事業の周知ができた。	市民が主体的に活動していくよう、産官民の更なる協働について検討していく。	地域共生社会についての理解と周知・啓発への協力を求め、より多くの企業等との協働を目指していく。
52	障がい福祉課	株式会社オリエントコーポレーション	協定締結先	事業協力	オリコ本社別館での授産品販売会	障害者就労施設等で製造された商品の販路拡大の支援のため、オリコ本社別館での社内販売会を開催	授産品販売会	令和6年3月18日開催 4事業所参加 売上額 141,090円		特になし	令和7年度も実施予定
53	高齢福祉課	イオンタウンふじみ野	事業者	事業協力	認知症啓発キャンペーン	認知症について広く周知するとともに、正しい理解を促進し、地域で見守る支援ネットワークを構築する。	「世界アルツハイマーデー」に合わせて認知症啓発イベントを実施する。	令和6年9月26日（木）午後1時から午後5時まで 来場者 246人	事業者の社会貢献及び店舗スペースの有効活用、集客につながっている。	市で実施する類似イベントとの差別化が課題。	年度ごとにテーマや内容を検討する。
54	高齢福祉課	TJUP地域交流委員会	その他	事業協力	TJUP地域交流委員会公開講座	埼玉県東武東上線沿線及び西武線沿線の大学、自治体、企業が連携し、地元で生まれ、育ち、生きていく若い世代の支援を行う。	介護予防に関する重要性・体操の実演、食生活等に関しての公開講座の開催する。	令和6年9月28日（土）午後2時から午後4時まで 会場参加者 50人 会場と他自治体会場をオンラインでつないで実施	大学生を中心とした介護予防の企画に高齢者が参加し、多世代交流が図れた。	TJUP地域交流委員会の企画と介護予防センターの多世代交流事業として実施できる内容とのマッチング。	実施内容が介護予防センターの多世代交流事業に当たる場合は協力実施。
55	高齢福祉課	文京学院大学ソフトバンク（株）	協定締結先事業者	事業協力	シニア向けスマホ教室	産官学協働の取組として実施。	シニア向けのスマホ教室を実施。ソフトバンク職員が講師となり、学生がスマホ操作及び講師補助を行うとともに高齢者との交流を図る。	(1)令和6年11月2日（土）午後1時から午後4時まで 参加者 19人 学生ボランティア7人 (2)令和6年12月7日（土）午後1時から4時まで 参加者 18人	大学生を中心としたスマホ教室に高齢者が参加し、多世代交流が図れた。	産官学のそれぞれの目的や展望がうまくマッチングできないと継続できない。	事業者等からの提案等に合わせて、必要に応じて実施する。
56	高齢福祉課	明治安田生命保険相互会社	事業者	事業協力	認知症啓発キャンペーン	認知症について広く周知するとともに、正しい理解を促進し、地域で見守る支援ネットワークを構築する。	「世界アルツハイマーデー」に合わせて認知症啓発イベントを実施。イベントの中で、簡易的な健康チェックを実施した。	令和6年9月26日（木）午後1時から午後5時まで 来場者 246人	事業者の社会貢献及びイベントの集客につながっている。	市で実施する類似イベントとの差別化が課題。	年度ごとにテーマや内容を検討する。
57	高齢福祉課	株式会社エーザイ	事業者	事業協力	市民向け公開講座	官民連携の取組として実施。	民間事業者との連携により、認知症及び軽度認知障害（MC I）について、市民へ周知・啓発を行う。	令和7年3月15日（土）午後1時から午後1時45分まで 参加者 17人	認知症及び軽度認知障害（MC I）の周知・啓発につながっている。	市と事業者、それぞれの目的や狙いのマッチング、見極めが必要。	事業者等からの提案等に合わせて、必要に応じて実施する。
58	保健センター	文京学院大学	協定締結先	事業協力	心理学専門演習Ⅰ（精神保健学演習）	保健行政の周知啓発や専門相談におけるアセスメント・支援技術の講義を行うことで、地域で支え合う社会の維持発展や人材育成に資する。	保健センター常勤臨床心理士が、大学にて以下内容の講義を行う。 ・保健行政の説明 ・心理士の業務内容 ・架空事例を用いたレビュー	講義テーマ：行政における地域精神保健福祉～保健センター心理士の視点から～ 日時：令和6年7月5日（金） 10：40～12：20 参加者：22名（学部生9名、院生11名、職員1名、教授1名）	講義後のアンケートでは「保健センターが地域密着で様々な予防対策をしていることが分かった」「ロールプレイをできて良かった。実践に活かすため、ロールプレイをもっとやりたい」など好評な意見が多く、次年度も実施を打診された。	普及啓発事業の効果には、参加者のモチベーションや目的意識の高さが深く関係している。そのため、座学に加え、疑似面談などの体験学習を含んだ内容を追加する等、参加者の動機付けを高める内容を検討する必要がある。	今後も実施していく。
59	保健センター	女子栄養大学	協定締結先	事業協力	ふじみ野市食生活改善推進員協議会 会員研修会	食生活改善推進員は、食を通じた健康づくりを推進する住民ボランティアとして、市の健康増進・食育推進活動を担っている。食や栄養の専門教育機関である女子栄養大学において、その実践的な取組や最新の情報に触れることで、推進員の資質向上を図ることを目的とする。	食生活改善推進員協議会の会員を対象に、食や健康づくりに関する研修会を行う。	テーマ：薬酸と生活習慣病予防について 日時：令和6年9月26日（木） 会場：女子栄養大学 坂戸キャンパス 参加者：ふじみ野市食生活改善推進員協議会員24名	坂戸市での「薬酸プロジェクト」について学んだことで、食生活改善推進員からは、「自らの食生活を振り返るきっかけとなった」「薬酸の機能性を理解することができた」などの前向きな意見や感想があった。推進員活動の意欲向上につながった。	研修を契機として、学んだことを推進員活動の実践や充実につなげていく必要がある。	食生活改善推進員協議会の希望を受け、双方での協議のうえ、実施を検討していく。
60	保健センター	女子栄養大学	協定締結先	事業協力	食育推進に関わる栄養士庁内連絡会議	本市の食育推進のため、庁内の栄養士の連携を図る。	「ふじみ野元気・健康プラン」に基づき、本市の食育を推進するにあたって、市民の食をめぐる現状と課題等を把握し、庁内の栄養士が連携しあって取り組みを検討する。	開催回数：2回 ・令和6年9月27日（金） 午後2時30分～4時30分 ・令和7年3月7日（金） 午後2時30分～4時30分	庁内の各栄養士の事業概要などの情報共有を実施できた。また、第2期ふじみ野元気・健康プランの推進にあたり、食育分野の具体的な取り組みについて検討する機会となった。	第2期ふじみ野元気・健康プランを推進するために、今後も協定を活用し、食育の具体的なかつ効果的な取り組みを検討していく必要がある。	今後も定期的に会議を実施していく。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
61	建築課	ふじみ野市資源リサイクル協同組合	協定締結先（独自）	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市とふじみ野市資源リサイクル協同組合が相互に連携、協力し、空き家等の管理業務を実施することにより、空き家等が管理不全な状態になることを防止する。	市は空家所有者からの依頼を受け、ふじみ野市資源リサイクル協同組合へ空家等の敷地内にある残置物の処理及び処分、樹木の剪定、伐採、除草などの業務を取り次ぐ。また、市はそれらの業務についてチラシ配布や市報掲載などにより広く周知する。	令和6年度　取次ぎ件数19件 空家敷地の選定・除草等の業務を広く周知するため、市報掲載及びチラシ配布を実施した。		空家所有者は市外に居住していることが多いため、市民向けの市報や市のホームページだけでは周知の効果が十分得られない。	空家所有者への適正管理の助言文書を送付する際に業務案内のチラシを同封し、利用を促す。
62	建築課	入間東部シルバー人材センター	その他	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市と入間東部シルバー人材センターが相互に連携、協力し、空き家等の管理業務を実施することにより、空き家等が管理不全な状態になることを防止する。	市は空家所有者からの依頼を受け、入間東部シルバー人材センターへ空家の見回り、樹木の剪定、伐採、除草などの業務を取り次ぐ。また、市はそれらの業務についてチラシ配布や市報掲載などにより広く周知する。	令和6年度　取次ぎ件数1件 空家敷地の選定・除草等の業務を広く周知するため、市報掲載及びチラシ配布を実施した。		空家所有者は市外に居住していることが多いため、市民向けの市報や市のホームページだけでは周知の効果が十分得られない。	空家所有者への適正管理の助言文書を送付する際に業務案内のチラシを同封し、利用を促す。
63	建築課	埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部	協定締結先（独自）	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市と埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部が相互に連携、協力し、空家バンク事業を実施することにより、空家の予防及び利活用を推進する。	空家所有者が空家バンクへ登録し、広く物件情報を公開し、埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部に所属する宅建業者が媒介を行うことで空家の売買・賃貸を希望する所有者と利用者とのマッチングを図る。	令和6年度　登録件数0件 空家バンク事業を広く周知するため、市報掲載及びチラシ配布を実施した。		空家所有者は市外に居住していることが多いため、市民向けの市報や市のホームページだけでは周知の効果が十分得られない。	空家所有者への適正管理の助言文書を送付する際に業務案内のチラシを同封し、利用を促す。
64	建築課	ふじみ野市自治組織連合会	協定締結先（独自）	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市とふじみ野市自治組織連合会が相互に連携、協力し、空家等に関する情報提供、その情報提供に基づく状況確認や所有者への指導等を実施することにより、安全かつ安心な市民の生活環境の保全を図るとともに、空家等の利活用を推進する。	市は自治組織から空家等の情報提供を受け、その空家の状況確認を行い、必要に応じ所有者へ空家の適正管理に関する助言・指導等を行う。	令和6年度　情報提供件数7件		空家は個人の財産であるため、自治組織が所有者の同意なしで適正管理することは難しい。令和4年度に実施した自治組織対象の空家対策に係るアンケート調査では、空家所有者に対する対応の難しさが多数挙げられた。	引き続き自治組織連合会から、地域の管理不全空家に関する情報提供を受け、安全かつ安心な市民の生活環境の保全を図るとともに、空家等の利活用を推進する。
65	建築課	特定非営利活動法人空家・空地管理センター	協定締結先（独自）	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市と特定非営利活動法人空家・空地管理センターが相互に連携、協力し啓発セミナー等の開催や空家管理サービス及び空家活用相談業務等を実施することにより、空家等が管理不全な状態になることを防止し、良好な生活環境を確保する。	特定非営利活動法人空家・空地管理センターは空家管理サービス及び空家活用相談業務や啓発セミナー等を実施し、市はそれらの業務についてチラシ配布や市報掲載などにより広く周知するなどの支援を行う。	令和6年7月28日にビデオセミナー及び個別相談会を実施し、ビデオセミナーは10人、個別相談は3人（3組）が参加した。 （上記以外の個別相談件数　12件） 空家管理サービス等を広く周知するため、市報掲載及びチラシ配布を実施した。		空家所有者は市外に居住していることが多いため、市民向けの市報や市のホームページだけでは周知の効果が十分得られない。	空家所有者への適正管理の助言文書を送付する際に業務案内のチラシを同封し、利用を促す。
66	建築課	埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部	協定締結先（独自）	事業協力	空家対策事業	ふじみ野市と埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部が相互に連携、協力し、空家等に関する相談窓口を一本化することで、市民等からの様々な相談に対して迅速かつ適切に対応する。	埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部は空家に関する相談、権利の整理、売却・賃貸の方法、リフォーム、土地活用、解体など様々な相談に対して、窓口を1本化したワンストップ相談を行い、市は相談の取次ぎをするほか、チラシ配布や市報掲載などにより相談事業を広く周知する。	令和6年度　相談取次件数13件 ワンストップ事業を広く周知するため市報掲載及びチラシ配布を実施した。		空家所有者は市外に居住していることが多いため、市民向けの市報や市のホームページだけでは周知の効果が十分得られない。	空家所有者への適正管理の助言文書を送付する際に業務案内のチラシを同封し、利用を促す。
67	建築課	社団法人埼玉建築士会入間第一支部	協定締結先（独自）	事業協力	ふじみ野市住宅耐震化・リフォーム相談事業	ふじみ野市と社団法人埼玉建築士会入間第一支部が相互に連携、協力し、住宅耐震化・リフォーム相談事業を実施することにより、ふじみ野市内の住宅の耐震化を推進する。	住宅の耐震改修やリフォームを考えている市民に対し、月1回程度（平日）の定例相談と年2回程度（土・日）の出前相談会を行う。	令和6年度　相談件数 定例相談会（8月）2件、（9月）1件 出前相談会（5月）4件 耐震診断補助金実績　2件 耐震改修工事補助金実績　1件		引き続き、住宅の耐震化の啓発と補助事業の利用促進を図る必要がある。	引き続き、住宅の耐震化の必要性と補助事業について、耐震・リフォーム相談会により住宅の耐震化を推進する。
68	社会教育課	ほうきづくり友の会	市民団体	事業協力	文化財保護事業	ふじみ野市の地場産業であった座敷等づくりの技術や文化を継承する。	材料となるホウキモロコシの栽培、ほうきづくり技術の研修、次世代への座敷等づくりの技術や文化の伝承などを行う。	会員数は22人。市民対象のほうきづくり講習会を11月30日と2月9日に実施した（参加者は計21人） 前年同様に東台小学校3年生の座敷ほうきの歴史の授業、ホウキモロコシ栽培・収穫、小ほうきづくりを実施した。また、東台小学校全校児童、保護者等向けに「地域の伝統を学ぶ集いほうき講座」を実施した。さらに、さきの森小学校・太井小学校でほうきづくりの授業を行った。		ほうきづくりの技術取得、友の会活動をけん引するリーダーの育成（材料づくりやほうきづくり、授業展開など活動の種類により複数の人数が必要と感じている。）、ほうきの材料となるホウキモロコシの入手が国内では難しく、また栽培の人手不足が問題である。	リーダーとして活躍できる場面を意図的に作っていく。新規会員の募集と体験学習に参加した方に向けて栽培体験への参加を呼び掛けている。
69	社会教育課	資料館・文化財ボランティア、権現山くらぶ、ふじみ野こどもエコクラブ、滝自治会	市民団体	事業協力	権現山古墳群保存活用事業	県指定史跡「権現山古墳群」の保全・活用を図る。	清掃・除草・樹木剪定等の保存管理や体験学習・観察会等の活用事業を実施する。	7月31日に「権現山探検　権現山の大地を探ろう」（参加者7人）を実施した。3月22日に「権現山古墳群周辺の文化財と地形散策」を実施した。権現山探検ではボランティアの協力を得た。また12月17日に権現山古墳群史跡の森の落ち葉掃きを、ボランティア及び滝自治会の協力を得て実施した。		高齢化等により、権現山のボランティア団体「権現山くらぶ」の活動が十分でなかった面もあるが、新たにふじみ野こどもエコクラブなど地元の方々による協力もあり、体験学習や落ち葉はきなどの事業を進めることができた。権現山の整備を計画していく中で、ボランティアの募集・育成や継続的な活動についての検討、ボランティアへの新規加入の促進を進めていきたい。	権現山くらぶ、ふじみ野こどもエコクラブ、権現山周辺の住民の方々とも、事業協力や意見交換をする機会を増やしていく。ボランティアと協働した事業の展開と周知の方法について他の事例など参考にしながら検討する。
70	社会教育課	やさしい日本語でめぐるツアーガイド	市民団体	事業協力	やさしい日本語でめぐるツアーガイド事業	「やさしい日本語」を使って、ふじみ野市の歴史や文化財、観光などについて、より多くの人に伝える。	令和4年度に実施した「やさしい日本語でめぐるツアーガイド養成講座」（令和4年9～11月全7回講座）の受講修了者が企画・運営し、在住外国人を対象に、「やさしい日本語」で説明しながら、市内のまちゃんぼや体験学習などを行う。	やさしい日本語でめぐるツアーガイド養成講座受講修了者26人のうち、12人が活動を継続した。毎月の定例会で事業の企画・運営などについて話し合いをした。令和6年度は在住外国人向けのツアーを2回実施した。（参加者数21人）また、研修会1回とにほんカフェ6回を実施した。		継続的な活動が出来るように、支援をしていく。ガイドボランティアとしての組織を構築するかどうか検討していく必要がある。	在住外国人を対象にした「やさしい日本語でめぐるまちゃんぼ事業」の企画・運営（年2回）、「にほんカフェ」の開催（年9回程度）を行う。あわせて、ガイドボランティアの養成講座や研修会なども行っていく。
71	社会教育課	学校法人文京学園	協定締結先	事業協力	地域学校協働活動推進事業（放課後子ども教室）	放課後における子どもたちの安全安心な居場所を提供し、様々な体験、交流、学習等の活動の機会を提供する。	学習時間、外遊び、工作、季節の催し	令和6年度については、市内全13校にて通年開催で事業を行った。文京学院大学との連携については、大学の「地域と学校」の授業の演習として、1グループ2～3人の学生が2学期に7校、各校3回参加した。3回目は学生が主体となってイベントの企画・運営を行い、児童や指導員との交流を行った。		大学生にイベントに参加していただいたことで、放課後子ども教室に参加する児童にとって、新たな新鮮な経験をすることができ、現場の指導員からも大変好評であった。今後単発的な交流に留まらず、継続・拡大していくことが望まれる。	継続して大学生が活動に参加していただけるよう、学校との調整を進めていく。内容についても、より学生が主体となって放課後の子どもたちの安心・安全な居場所づくりに地域の力として関わることができるよう検討していく。
72	社会教育課	資料館友の会　機織り部会	市民団体	事業協力	文化財保護事業	ふじみ野市の地場産業であった座敷等づくりの技術や文化を継承する。地場産業であった機織りの技術や文化を継承する。	機織の見本帳から織物を再現。機織技術や染色の研修、技術や文化の伝承を行う。	市民対象の機織体験を福岡河岸記念館で7月13日、8月17日、9月14日に実施した（参加者数27人）。		新規入会者の加入を増やし、会の技術継承を計っていく必要がある。	体験学習により入会者の増加を見込む。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
73	社会教育課	伝統工芸研究会	市民団体	事業協力	文化財保護事業	伝統工芸の水引に関する技術や文化を継承する。	水引の技術の研修。	市民対象の水引体験を12月8日、2月23日に実施した（参加者数21人）。		新規入会者の加入を増やし、会の技術継承を計っていく必要がある。	体験学習により入会者の増加を見込む。
74	社会教育課	学校法人文京学院	協定締結先	事業協力	文化財保護事業	若い世代へ歴史を語り継いでいくこと、世代の異なる参加者同士の学び合いから参加者が新たなまちづくりへのヒントを得る機会とする。	文京学院大学まちづくり研究センターふじみ野と共催し、市の歴史や文化財を次世代へ継承していくための事業を実施する。	連続企画「旧軍用地の軌跡をたどる～まちの記憶・記録と郊外のまちづくり～」と題し、11月23日にまちあるき企画「記憶をつなぐまちあるき～あの日 あの頃に会い直す～」（参加者7人）、12月15日、3月1日に公開研究会「戦後地域史料を読む」（参加者11名）を実施した。		より多くの方に事業に参加してもらうための周知方法や募集方法について、工夫・検討が必要である。	継続して事業を実施することで定着させる。
75	ふじみ野市議会	文京学院大学	協定締結先	事業協力	ふじみ野市議会図書室と文京学院大学図書館との連携	「ふじみ野市議会と文京学院大学との連携に関する協定書」の締結に伴い、協定項目の一つとして大学の図書館との相互利用を行い、議会図書室の機能充実を図る。	調査、研究、教育又は学習を目的に、図書室（館）内での図書資料の閲覧、資料の貸出、図書室（館）内に設置された情報端末の利用、大学図書館内に設置された複写機の利用、参考調査、大学が設置する他の図書館からの資料の取り寄せ等の利用が可能。	令和6年度 ①議会図書室 利用者 0名 ②大学図書館 利用者 延べ2名	令和6年度については、評価の対象となる事業はありません。	議会図書室の整備、蔵書等の充実。	令和7年度予算に議会図書室の整備に必要な図書購入予算を措置し、現在整備を進めている。
76	ふじみ野市議会	文京学院大学	協定締結先	事業協力	議会報告会及び意見交換会	「ふじみ野市議会と文京学院大学との連携に関する協定書」の締結に伴い、協定項目の一つとして文京学院大学生と議員の人材交流及び育成を図る。	生活・福祉常任委員会にて、委員長による定例会報告に続き、子どもの貧困支援と引きこもり支援をテーマに、福祉分野を専攻している文京学院大学生と議員で意見交換会を実施。	担当教員：中島 修教授 参加学生人数：13名	終了後の学生アンケートより、「意見交換を通して視野が広がった」「直接議員と意見交換ができ自身の意見を発信できたことは貴重な経験だと感じた」「意見を言いやすいように、議員からプラスの言葉かけや共感が多かったので話しやすかった」との声があった。	学生の意見を生かしていくこと、今後の議会報告会の開催方法。	令和7年度の議会報告会について多様な開催方法を検討している。



No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
77	市民総合相談室	ふじみ野市男女共同参画をすすめる市民の会	市民団体	委託	令和6年度ふじみ野市男女共同参画意識啓発事業委託	男女共同参画に関する市民の認識と理解を深めるための啓発事業を市民団体等に委託して実施することにより、市民の主体的な活動による男女共同参画社会の実現を図る。	ふじみ野市第2次男女共同参画基本計画の基本目標、主要課題に沿ったもの、又は男女共同参画社会づくり、女性活躍の推進に役立つと認められる事業で、広く市民に啓発できる事業を委託する。	◎講演会「三淵嘉子の生涯」 実施日：令和6年11月9日（土） 参加人数：97人 ◎映画会「そばかす」 実施日：令和7年1月25日（土） 参加人数：81人 男女共同参画に関する市民の認識と理解を深めるための啓発事業を実施することができた。	参加者からは「このようなイベントは続けてほしい」と大変好評であり、女性活躍推進や性的マイノリティなどに対する理解を深めていただける事業となった。	市で審査のうえ、採用する事業を決定するため、市民団体からは選考をクリアする事業を提案していた必要がある。	引き続き、市民団体等に啓発事業を委託する。
78	協働推進課	ふじみ野みらい	NPO	委託	市民大学ふじみ野	「市民の学び 地域の学び 知の好循環」を基本理念に、市民による市民のための学びの場を提供する。	市民のニーズを的確に把握し、迅速かつ柔軟性のある運営を推進するため、講座等の企画運営や市民大学ふじみ野の事務局運営を委託形式により行っている。 ※学長は文京学院大学木村浩則教授に務めていただいている。	【成果】 市民ニーズに合った講座を提供でき、「知の好循環」の一助を図れたと考えられる。  【実施講座数及び参加者数】 ①レギュラー講座 ・前期：7講座(受講者85人) ・後期：9講座(受講者149人) ②学び合い講座 ・7講座(受講者75人) ③特別公開講座 ・2講座(受講者188人)	受講者の満足度が高い講座が実施できている。	実績を鑑み、講座選定を行っているが、カリキュラムの固定化が課題である。	多種多様な講師、講座展開に努める。
79	文化・スポーツ振興課	団体	その他	委託	文化芸術企画提案型委託事業（ステラ・イースト及びウェストホール活用事業）	市で活動するアーティストの質の向上を図るとともに、身近な地域で広く市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創り出すことで、市民の文化芸術事業に対する参加意識向上、市の魅力発信、新たな人材の発掘、担い手の確保へつなげる。	音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等をホールで実演する事業を公募し、選定委員会により選定された団体・個人を受託者として実施する。	3団体へ事業を委託し、コンサートやアウトリーチ活動、ワークショップを実施し延べ2,263名が来場した。	地域で本格的な演奏を届けることができ、お客様からも好評だった。子どもたちに音楽の楽しさを体験してもらうことができ、継続して活動を続けていきたい。	事業者への評価や事業効果を踏まえ、文化振興審議会において事業の在り方や募集・選定基準について検討していく必要がある。	募集要項の見直しを行い、継続して事業を実施する。
80	文化・スポーツ振興課	団体、個人	その他	委託	文化芸術企画提案型委託事業（アートに触れようプロジェクト）	身近な地域で広く市民が多様なアートに親しみ交流する機会をつくり、多様な市民の交流やふじみ野市の魅力を発信する事業の開催を通じ、地域の活性化や地域文化の向上を図る。	文化芸術法第8条から第14条までに規定する文化芸術に関するワークショップ事業を公募し、選定委員会により選定された団体・個人を受託者として実施する。	6団体・個人へ事業を委託し、ワークショップを実施し延べ243名が来場した。	参加者から次回開催の要望をいただくなど反響がおおきく、事業を実施してよかった。	事業者への評価や事業効果を踏まえ、文化振興審議会において事業の在り方や募集・選定基準について検討していく必要がある。	募集要項の見直しを行い、継続して事業を実施する。
81	文化・スポーツ振興課	団体、個人	その他	委託	文化芸術企画提案型委託事業（街中に音色が響くプロジェクト）	身近な地域で気軽に聴ける演奏会に親しむ機会とするとともに、多様な市民の交流やふじみ野市の魅力を創出し、地域の活性化や地域文化の発展を図る。	音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等のまちかど・ロビーコンサート事業を公募し、選定委員会により選定された団体・個人を受託者として実施する。	4団体・個人へ事業を委託し、さまざまな場所でコンサートを実施し延べ411名が来場した。	身近な場所でコンサートを開催することで、ふだん演奏を聞く機会が少ない人にも来場いただき、演奏を楽しんでいただけた。	事業者への評価や事業効果を踏まえ、文化振興審議会において事業の在り方や募集・選定基準について検討していく必要がある。	募集要項の見直しを行い、継続して事業を実施する。
82	文化・スポーツ振興課	日本環境マネジメント株式会社、ふじみ野市文化協会	その他	委託	ふじみ野市文化芸術活動地域支援事業業務委託	文化芸術を生活の中に取り入れる契機とすることにより、小中学生が継続して文化芸術活動を行うきっかけづくりとする。	文化芸術を生活の中に取り入れる契機とすることにより、小中学生が継続して文化芸術活動を行うきっかけづくりとする。	公共施設を活用し、9分野にて全71回開催し、延べ2,170名が参加した。 また市内中学校の文化部活動を対象に、計61回の講師派遣を行った。	文化施設での教室開催や中学校部活動への講師派遣を通して、部活動に限らず地域で様々な文化芸術活動を行う機会を提供できた。	児童・生徒のニーズに沿った事業を展開できるよう、事業の在り方について検討していく必要がある。	令和7年度も、公共施設のほか各中学校へ赴いて事業を展開する。
83	文化・スポーツ振興課	ふじみ野市文化協会	その他	委託	ふじみ野市伝統文化芸能保存継承等業務委託	伝統文化・民俗芸能を次代に継承及び幅広く市民に周知することで、持続可能な基盤形成を図り、地域活性化を推進する。	ふじみ野市に残る各地域等の伝統文化等の調査を行い記録すると共に、担い手不足の克服や認知度を向上するための取組に対して、取組内容の促進の支援や情報発信及び多世代や多種多様な文化芸術団体との交流の機会を設ける取組を行う。	市内のお囃子団体への調査を行いその活動を記録するとともに、市内各団体の協力を得て、お囃子や太鼓、演劇、舞踊の体験ワークショップを計13回開催し、延べ91名が参加した。	体験ワークショップを通して、地域の子どもたちと各団体が交流する機会を創出したことで、子どもたちが伝統文化へ興味関心を持つきっかけが作れた。また各団体やワークショップ参加者のホール出演を経て、市の伝統文化の現状を広く周知することができた。	少子高齢化が進む中でも次世代への継承（担い手の確保）が進められるよう、地域を越えた取り組みを検討する必要がある。	継続して事業を実施する。
84	文化・スポーツ振興課	アイル・オーエンスグループ、一般社団法人ふじみ野ふあいぶるクラブ	その他	委託	ふじみ野市スポーツ活動地域支援事業委託	生徒が所属している部活動から事業をスタートし、生徒が競技を通じて基礎的なスキルを向上させるとともに、その競技をより深く楽しみ充実した活動を実施する。	中学生を対象に運動部各種目を合同部活動として開催し、地域にゆかりのある人材が指導を行う。	市内中学校施設、市スポーツセンターを活用し、延べ66回、1,834人が参加した。	専門性の高い指導により技術向上に繋がるとともに、合同活動の中でのミニゲームは、技術を高めるとともに、交流を深める契機となった。	学校によって生徒の参加意欲に差がある。より多くの生徒に参加してもらうためには、学校（顧問）への事業周知を強化し、年間計画を立てだうえで、事前に顧問へ情報を共有する必要がある。	継続して事業を実施する。
85	子育て支援課	ふじみ野市学童保育の会	NPO	委託	ふじみ野市子育てサロン事業	乳幼児を子育て中の親子が気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合い、子育てに関する相談、情報提供などを行う子育て支援拠点を設置することで保護者の孤立感や不安感を緩和し、地域の子育て家庭に対する育児支援をすることを目的とする。	乳幼児を子育て中の家庭の交流、子育てに関する相談の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育てに関する講習の実施	市報掲載、赤ちゃん学級、乳幼児健康診査（4か月健診）、はじめてコンシェルジュ事業にて子育てパンフレットの配布、子育て情報配信メール、Instagram等を活用し、周知を図った。周知や利用者同士の口コミにより利用に繋がっているケースが多い。 利用者総数：第2鶴ヶ丘子育てサロン：722人(大人334人子ども388人)東原子育てサロン：1141人(大人550人子ども591人)	東原子育てサロンの利用者数は増加傾向にある。周知効果の影響の他、近隣の大井子育て支援センターとの事業内容を選び利用する姿がある。第2鶴ヶ丘子育てサロンに関しては、同様に周知を図っているが、子育てサロン周辺の住環境などから、乳幼児を子育て中の家庭が少ない傾向がある。少し離れた区域からの利用にも繋げるため、良い周知方法はないかと模索・検討中である。	第2鶴ヶ丘子育てサロンの周知の工夫が必要である。東原子育てサロンに関しては、令和6年度利用者の多くが、保育所入所と事前にわかっており、令和7年度はまた新たな利用者への周知が必要となってくる。引き続き、様々な周知方法を検討していく必要がある。	引き続き、子育てパンフレットや子育て情報配信メール、市報等を活用し、周知を図る。 令和7年6月に「庁舎内1階ギャラリー」において、地域子育て支援拠点(市内13施設)の展示を開催予定。子育てサロンの周知も行う。
86	子育て支援課	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社	事業者	委託	ふじみ野市子育てサロン事業	乳幼児を子育て中の親子が気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で語り合い、子育てに関する相談、情報提供などを行う子育て支援拠点を設置することで保護者の孤立感や不安感を緩和し、地域の子育て家庭に対する育児支援をする。	乳幼児を子育て中の家庭の交流、子育てに関する相談の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育てに関する講習の実施	市報掲載、赤ちゃん学級、乳幼児健康診査（4か月健診）、はじめてコンシェルジュ事業にて子育てパンフレットの配布、子育て情報配信メール、Instagram等を活用し、周知を図った。周知や利用者同士の口コミにより利用に繋がっているケースが多い。 利用者総数：2072人(大人1013人子ども1059人)	駒西子育てサロンの利用者数は増加傾向にある。放課後児童クラブのフェンスを利用した横断幕やのぼりの設置など、視覚効果を利用した周知を実施したことも利用者数の増加の一因と思われる。上野台子育て支援センターと併用して利用する親子が多く、子育てサロン閉室日には上野台来所など、市内子育て支援拠点の連携が取れていることで、利用者への好影響が得られている。引き続き、周知を図ってきたい。	令和6年度利用者の多くが、保育所入所と事前にわかっており、令和7年度はまた新たな利用者への周知が必要となってくる。引き続き、様々な周知方法を検討していく必要がある。	引き続き、子育てパンフレットや子育て情報配信メール、市報等を活用し、周知を図る。 令和7年6月に「庁舎内1階ギャラリー」において、地域子育て支援拠点(市内13施設)の展示を開催予定。子育てサロンの周知も行う。
87	社会教育課	ふじみ野市人権教育推進協議会	その他	委託	人権教育・平和推進事業	ふじみ野市における人権教育の円滑な推進を図り、差別や偏見のない人権尊重のまちづくりに寄与する。	人権教育研修会、親子映画会、人権教育講演会・公演劇、啓発活動	・7月 人権教育研修会「聴覚障がいと聴導犬について知ろう」 参加者38人 ・8月 人権教育親子映画会「モアナと伝説の海」 参加者450人 ・10月 人権教育研修会「マンガ・絵本・小説からかんがえる しんぱん」 参加者18人 ・12月 人権週間啓発キャンペーン(啓発物資配布) 配布回数300回 ・2月 人権講演会「〜ウクライナの歌姫〜ヘタダーシャ・グジーコンサート」328人		幅広い世代の方に事業に参加してもらうための周知方法や募集方法について、工夫・検討が必要である。	テーマの取り上げ方や、周知方法について検討を進めながら、誰もが人権問題について関心・意識を持つきっかけになるような事業を継続して実施していく。

No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
88	上福岡西公民館	花と緑部会	その他	共催	緑のカーテン育成講座	緑のカーテンの育成・栽培したゴーヤを調理することを通して、緑のカーテンの付随効果を和らぐことで、これを継続する動機付けとすることと併せて、温暖化への環境意識を高めます。	講義及び実習など（全1回）	【成果】緑のカーテンの効果や作り方、また苗を上手に作る肥料の選び方や植物の選び方、農業散布の仕方など身近な緑化について学習しました。 【参加者数】参加人数：28人	環境意識の向上のためにも、今後も事業を継続していきたい。	毎回、参加者募集時に申込定員に達する機会が多いため、募集定員の増員を検討する必要がある。	参加募集については、今後も継続して、市報・Fメール・市ホームページ・チラシ・ポスター掲示等を通じて、参加募集を募っていく。



No.	協働事業実施者			協働事業の概要				協働事業の実績	協働事業の評価	協働事業の今後の取組	
	部署名	相手方	種類	形態	事業名	目的	事業概要	実績・効果・参加者数等	相手方の意見・評価	課題	取組
89	公園緑地課	公園等愛護会	市民団体	アダプト制度	公園等愛護会	市が管理する公園等について、地域住民で組織された公園等愛護会と協力して維持管理することにより、良好な環境づくりを目指す。	公園等愛護会が奉仕活動として公園等の除草、清掃等を実施し。その活動に対し、市が報償金を支払う。	公園等を良好な環境に保つことができた。 新規団体の設立が1団体。 会員の高齢化等の理由により解散した団体が1団体。 令和6年度末現在、38団体。	公園等を良好な環境に保つことができている。 会員以外の市民たちからの声掛けなどで交流も増えている。	愛護会会員の高齢化が進み、解散する団体が増えつつある。	新規の愛護会団体が増えていくようHPや市報などで募集、啓発を行う。
90	公園緑地課	公園等愛護会	市民団体	アダプト制度	公園等愛護会	市が管理する公園等について、地域住民で組織された公園等愛護会と協力して維持管理することにより、良好な環境づくりを目指す。	公園等愛護会が奉仕活動として公園等の除草、清掃等を実施し。その活動に対し、市が報償金を支払う。	公園等を良好な環境に保つことができた。 新規団体の設立が1団体。 会員の高齢化等の理由により解散した団体が1団体。 令和6年度末現在、38団体。	公園等を良好な環境に保つことができている。 会員以外の市民たちからの声掛けなどで交流も増えている。	愛護会会員の高齢化が進み、解散する団体が増えつつある。	新規の愛護会団体が増えていくようHPや市報などで募集、啓発を行う。
91	道路課	近藤建設株式会社 外7団体	事業者	アダプト制度	ふじみ野市道路サポーターズ制度	市が管理する道路において、ボランティアで清掃美化活動を行う市民団体等を道路サポーターズとして認定し、快適で美しい道路環境づくりを推進するとともに、道路美化意識の向上を図る。	市が管理する道路の清掃、除草及び刈り払い等の活動に必要なごみ袋、手袋等の支給をしている。また、作業により発生した草、ごみの回収、処分を行っている。	市が管理する道路において、企業団体や市民団体がボランティアで清掃美化活動を行うことにより、快適で美しい道路環境作りの一助となっている。 活動者不足により、6年度中に1団体が解散している。	企業団体以外の市民団体の活動者の勧誘活動に力を入れる。	企業団体以外の市民団体活動者の高齢化に伴う後継者不足が生じているため、継続的な活動ができるよう支援を行う必要がある。	企業団体以外の市民団体の活動者の勧誘活動に力を入れる。
92	道路課	舟運・ふじみんの郷	NPO	アダプト制度	ふじみ野市河川敷地維持管理制度、彩の国川の応援団制度	活動区間の河川敷地について、野生動植物の生態系を考慮しながら、清掃美化活動及び草刈り等の活動をボランティアで行う。水辺環境の保全・育成。	団体が行う清掃などの美化活動により回収したごみの処理、活動に必要なごみ袋、手袋等を支給している。	河川愛護団体が行った清掃活動で発生した草やごみの処分を行い、また、河川愛護団体の活動などを広報に掲載し、啓発を行った。 河川愛護団体が主催する清掃活動については、11月に団体と職員で協働して行い、3月は天候不良により中止となった。 また、6月に埼玉県川越県土整備事務所主催で清掃活動河川愛護団体、企業、行政が協働し実施しているが、天候不良により中止となった。	加入者の勧誘活動に力を入れる。	河川愛護団体活動者の高齢化に伴う後継者不足が生じているため、継続的な活動ができるよう支援を行う必要がある。	河川愛護団体活動者の勧誘活動に力を入れる。